



## 国際協議会報告

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度 ガバナーエレクト **松浦 光紀**  
(小樽南RC)

米国オーランドに於いて、1月8日から12日まで開催された国際協議会に参加してまいりました。日本との時差は14時間遅れており、昼と夜が逆転してしまい体調管理が大変でした。

日本を7日に出発するにあたり、国際ロータリーより、会議開始72時間前コロナウイルスのPCR検査を求められ、私は6日17時に東京の医療機関で証明を頂きアメリカの機関に送信させて頂き、約2時間後に検査の合格案内メールを頂き出発することが出来ました。一部の参加者はコロナウイルスの関係で東京への飛行機が欠航し、予定されていた日本を出発する飛行機に搭乗出来ず、別の飛行機を利用し遅れてアメリカに入国し、オーランドのホテルに到着された参加者がいました。

直接対面方式での国際協議会は2020年以来の久しぶりの事で、8日は登録他、歓迎レセプション、9日は、9時から1時間参加者と一緒に本会議でゴードン・マッキリー会長エレクトのテーマ「世界に希望を生みだそう」についてお聴き致しました。その後分科会、写真撮影、第2回本会議、分科会昼食をはさみ17時まで幾つかのグループに分かれ1コマ1時間半のガバナーエレクトの分科会を受けました。終了後歓迎レセプションが執り行われ、RI会長のお国であるバグパイプの演奏とスコットランドのディナーとダンス、が盛大に執り行われました。



毎日9時から17時、若しくは18時頃まで7回の本会議と9回の地区ガバナーエレクト分科会を受けさせて頂き、その後夕食が1時間半ほど続き散開となります。ホテルの部屋に入り、片付けや翌日の予習など目を通してしていると時差との関係で全く眠くなく、眠りつくのに苦労することもありました。

ガバナーエレクト分科会では日本から参加のガバナーエレクトの半数と諸外国のガバナーエレクトの方と一緒に分科会に参加するプログラムもありました。同時通訳が素晴らしく、夫々のお国の事情を伺い知る事が出来、大変有意義な時間となりました。



会議の中で、11日には、文化交流の夕べがありました。ホテル内に参加された国々のブースが設けられ、様々な工夫がなされ素晴らし交流の機会となりました。日本のブースでは、参加された奥様方のご協力により大変盛り上がりました。私のパートナーは他界しておりますので、私一人の参加となりましたが、ガバナーエレクトの奥様方は、すべての本会議のプログラムに参加することが出来ます。ロータリーへの理解を深めて頂きました。

無事日本に帰国することが出来ました。2023-24年度ガバナーとして、当地区クラブの皆さま方のお役に立てるよう準備を進めて参ります。クラブの益々のご発展、ご協力をお願い申し上げます。

